

令和6年度新SBIR制度加速事業(フェーズ1) 所見

対象施策	評価項目	委員の所見 (優れた点や改善を要する点など)
【科学技術振興機構(JST)】 大学発新産業創出プログラム(START)プロジェクト推進型(SBIRフェーズ1支援)	1. 計画に示した取組の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・応募件数も増加し、十分な数の応募・採択が確保されている。研究開発の進捗も順調と考えられる。成果を商業実装していくには、今後は様々な企業との協業も必要と思料される。 ・応募数および採択数に関する改善は順調であるが、SBIRは各省庁ニーズを受けて採択テーマが設定されているものであり、長期間募集がないテーマの改善は、JSTのみの課題ととらえず改善が図られるべきと考える。 ・参加研究者の満足度も概ね高く、JSTによる支援は評価できる形で動いていると思われる。 ・応募件数が前年度に比べて増加している点は評価できる一方で、なぜ特定の課題が連続して応募がないのか、さらなる検証が必要。当該分野の専門研究者以外の応募を促すことができないのだろうか。今後の工夫に期待する。
	2. 取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・フェーズ2への採択件数、採択比率も評価できる。採択者からの取り組みに関する満足度も高い。今後は、最終的なマーケットも意識しながら、事業マイルストーンを設定し、案件によっては、外部企業・機関との協業をアレンジすることが大切となる。 ・フェーズ2への採択実績、起業、技術移転等、一定の結果を達成しているといえる。 ・研究支援よりもビジネス化に向けての更なるアドバイスがJSTからも必要なのかもしれないという印象を受けた。 ・単に起業したかどうか、目標化・重大指標になってしまわないように留意が必要。研究者が最終的に必ずしも経営者とならない(ならない方がよいケースも多い)、企業との提携や技術移転など、起業以外の道が検討されなくなってしまうか、やや不安が残る。
	3. 事業体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ元省庁、内閣府との連携も取れている。案件にもよるが、政府調達などへ繋げるストーリーも考慮しながら、支援を続ける必要がある。ただし、各省庁からの課題が当初のままでもいいのかということも常に問いかけながら、研究開発のターゲットを柔軟に調整して欲しい。この段階からでも、マーケティングを意識しながら、研究開発を進める必要がある。 ・サポート体制については引き続き手厚いものを感じる。ただし、講義に関して、こういう類のNPSや満足度評価から鑑みると、相対的に低い評価であると言える。この点についての改善は引き続き必要である。 ・70%を超える満足度の確保は全体として評価できると考える。
	4. 「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた研究開発期間を最大限活かしながら、採択者の満足度を上げる必要がある。 ・概ね順調だとは思いますが、個別のケースで研究者が受けている説明や広報のあり方などの情報がもう少しあったほうがよかったと考えている。

令和6年度新SBIR制度加速事業(フェーズ1) 所見

対象施策	評価項目	委員の所見 (優れた点や改善を要する点など)
【新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)】 研究開発型スタートアップ支援事業(SBIR推進プログラム)	1. 計画に示した取組の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な数の応募は確保できている点を評価。事前評価の充実なども効果を上げていると判断できる。ニーズ元省庁との協力体制も改善されている。 ・新規の応募数、採択数の前年度に対する定量的改善、それに紐づく具体的なアクションが効果を生んでいることを認識することができ、評価できる。 ・満足度アンケートでも比較的高い評価となっているので順調だと評価しても良いのではないかと。 ・課題がスタートする前から、ニーズ元の省庁と連携している点を高く評価する。
	2. 取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組プロセスの変更も功を奏している。 ・SBIRを通じた公共調達への道筋を採択者に今後提示できるかどうかを重要であるとする。また、NEDOの支援対象は企業であり、市場における競争環境下にあるので、なおのこと事業期間が課題にならない進め方が求められると考える。 ・効果の評価にCがついているケースが、特に研究開発時間や支援額についているが、どちらもこの制度の制約からすると致し方ない面もある。調達に関して極めてポジティブに動いている省庁もあるとのことでいい効果が生まれるかもしれない。
	3. 事業体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・伴走支援も含めた、協業体制の改善を評価。PMが、各プロジェクトに関し、本質的にマーケット、組織、人材と言う面での伴奏支援ができていないのかは、資料に明示されていないが、様々な取組が今後効果を発揮してくるのではないかと思料する。プロジェクトによっては、政府調達も活用しながら、今後のグローバル展開が可能となる事業の採択につながる体制作りが必要と考えられる。 ・採択審査委員会からPMが一気通貫して関与する方式は効果的であろう。また、期間が限定的な中で、採択者の負荷を最小化する取り組みを評価する。 ・全ての案件のヒアリングをしたわけではないが、メタ評価としては事業自体をNEDOの出口戦略に沿って確実に動いていると考える。 ・フェーズ1とはいえ、政府調達という目標をもう少し意識した事業体系の構築を検討いただきたい。
	4. 「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・応募の母集団が顕著に増えてきている。将来の応募者に寄り添った体制の、更なる拡充が期待される。 ・指針の広報的アウトリーチも順調に進んでいるのではないかと。

令和6年度新SBIR制度加速事業(フェーズ2) 所見

対象施策	評価項目	委員の所見 (優れた点や改善を要する点など)
【生物系特定産業技術研究支援センター(BRAIN)】 「知」の集積と活用 の場によるイノベーションの創出のうちスタートアップへの総合的支援	1. 計画に示した取組の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・応募数が1件ということで、今後は実際の採択につながる有力な応募の確保が必要。既存案件は概ね順調とされているが、判断に資する十分な情報が不足している。 ・応募件数がかなり少ないことが課題だと思われるが、採択された一つ一つの進捗は優れていると判断しても良いのではないか。 ・今年度の新規採択が0件ということをもって、プラスの評価とすることは難しいと判断した。昨年度の前ステージに問題がある、ということであれば、逆に前年度の採択数に対する+の評価を受けるべきではないと考える。評価の仕方に課題があるようであれば、是正いただきたい
	2. 取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・VC出資等の目処があるなどをはじめとして、全体として目標を達成する見込みとされている。具体的に如何なる支援を適切に行なってきており、それが効果的であったのかの判断が資料と説明からでは若干難しい。 ・この事業への応募の段階でかなり絞っているのはわかるが、評価の時に話題に出したように、応募しなかった研究機関などをもう一度ヒアリングをして可能性を探ってほしい。 ・縮小していく日本マーケットの中で、アグリテック領域の成長戦略は限定的。そこにフォーカスした戦略での資金調達には難易度が高い。国内に特化するのであれば政府調達、リスクマネーを受け入れるためにはグローバル戦略という関係になる。 ・世界でも通用する競争力のある技術開発が期待される。国内市場ありきで市場調査をすると、グローバルなマーケットチャンスを逃すリスクがある。シーズによっては最初からグローバル展開を目指すべきである。その見極めができるような体制を強化することを推奨する。
	3. 事業体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ元省庁なども含む各種のステークホルダーなどとの協業構築の実態が、資料からは分かりにくい。PMの支援範囲や活動の実態も、よく具体的に把握していく必要がある。 ・採択にかなりの時間をかけている点からも、真摯に取り組んでいるように感じた。 ・採択者の満足度は高く、その点において優れていると評価している。一方で、採択者のベースとなる期待値が低いことによる満足度の可能性が、内容から示唆されているように感じる。 ・グローバルな視点からの市場開拓ができる体制が望まれる。この領域は、日本が競争力が高い一方で、日本独自の規制や商慣習に縛られている側面もある。アジアはじめ、海外市場の事情に精通している有識者(研究者ではなく実務家)による評価をすれば、新しい市場創造のチャンスが広がる可能性がある。
	4. 「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・内閣府をハブとして、様々な取り組みの横展開を取り込む必要があるのではないか。 ・特に大きな指摘はない。

令和6年度新SBIR制度加速事業(フェーズ2) 所見

対象施策	評価項目	委員の所見 (優れた点や改善を要する点など)
【国土交通省】 交通運輸技術開発推進 制度(SBIR省庁連携型)	1. 計画に示した取組の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・報告を聞く限り、研究開発の進捗はうまくいっているようだが、ビジネス化への取り組みがあまり見えない。事業化へのシナリオ、知財の取り扱い、VCとの関係などの説明が弱いように思われる。 ・5件全てをフェーズ2に採択することが必須ではないが、今回は3件の採択にとどまっている。 ・応募、採択状況は相対的に良い。また相対的に、プロトタイプ開発と事業立ち上げは進んでいるように見受けられる
	2. 取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートによる満足度の高さという説明はあるが、満足度を測るための指標などが見えないので、どの点でどれだけの満足に達するのかという判断ができない。 ・全体として、マーケットを見据えた伴走支援が提供されているイメージが掴みにくい。PMの支援が、研究・技術の枠を超え、この段階からでもマーケティングを意識した支援をしていく必要がある。 ・採択者満足度は全体的に高い。一方で、この状態で起業してその後の発展がありえるか、という発射台の角度には懸念が残っており、採択者自身の期待値設定が低いための満足度の可能性もある ・研究開発は進捗しているが、社会実装・事業化が本当にできるのか、一部、不安が残る。新技術の費用対効果を、範囲は限定的ではあっても、早期により解像度高く評価できるような、ビジネスモデルの「実験」も必要ではないだろうか。
	3. 事業体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・この事業そのものはある一定の役割を果たしていると思われる。ただ、PMのご関心がどの程度、出口への取り組みにあるのか、その部分をどのように評価しているのかが分からない。 ・各案件に関して、いかなるバリューチェーンを構築することが最適なのかに関する支援は評価できる。今後は、各案件にマッチする経営人材のイメージ作り、組織や人材面での支援なども、とりわけSU設立の場合には重要となる。 ・事業化する、ということではなく、その後世界に拡大される事業およびスタートアップとなる、ということを念頭に置いた支援体制であり得ているか、という点が、より強化を図れるポイントであると考え ・高い専門性が求められる領域であり、かつ、市場も特殊性が高い。潜在市場はグローバルなため、事業化推進には、技術面だけでなくマーケット面で専門知識を持つ有識者が、早い段階から事業化のリスクやチャンス洗い出しに関わるのが望ましい。あるいはそのような人材にアクセスできる人脈を持つ、マネージャーが果たす役割が重要。採用したプログラムマネージャーのKPIが不明なので、明確にすべき。
	4. 「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発と出口の関係をより明確に事業者提案できているのかどうか？その指針が伝わっているのかどうか分からない。 ・フェーズ1からの応募プロセスを円滑なものにするための施策は評価できる。今後は、具体的なマーケット獲得につながる伴走支援体制の構築が必要とされる。